

一級建築士になるために ～大切なのは自分を知ること～

～一級建築士～

1. はじめに

私が一級建築士の試験勉強を始めたのは、平成28年の春頃でした。東北地方整備局に就職が決まっており、これから建築を仕事として生きていくのだと思いはじめていた頃で、漠然と一級建築士は必要な資格なのだと考え、資格学校に通い始めました。私の場合は、資格を取得しよう、絶対一級建築士になる、というような明確な決意や動機があったわけではありませんでした。ですが、働きはじめ、改めて自分の知識不足を痛感し、また、勉強をするにつれて増えていく知識と楽しさから試験勉強に対するモチベーションは徐々に上がっていったと思います。

本稿では、そんな私がどうやって一級建築士資格を取得したのか、そして資格取得をした今、仕事にどう活かしているのかについて書かせていただきます。そして、私の体験記がこれから受験を考えている方々の一助になればと思います。

2. 試験勉強

私の試験勉強の期間はおよそ2年間です。その間、資格学校に通い、勉強をしていました。資格学校に通ってはいましたが、一年目はあまり勉強に身が入らず、浅く広くという感じでした。ですが、1年目

のおかげもあって、2年目では、深い勉強の内容までスッと入ってきたように感じます。また、私はストイックに自分を追い込んで勉強するのが合う性格ではないので、週単位でノルマを決めて、あまり追い込み過ぎず、自分のペースで勉強を進めていくことを心がけました。

<学科試験>

学科試験の勉強は、平日4時間、休日10時間行っていました。その他に通勤通学の電車の中や、昼休み、トイレ休憩時などの隙間時間にも何かしらの問題と触れるようにしました。方法は様々で、スマホアプリの用語集や、問題集をスマホで撮影しておいての一问一答、さらには自宅中の壁に問題を貼り付けていました。当時は家中の壁が紙だらけで、家族を巻き込んで勉強をしていました。しかし、それでも私は、模擬試験では一度も合格点数を取ったことがありませんでした。何度も挫けそうになりましたが、最後まで諦めずに、本番直前は過去問を何度も解き、粘った結果、なんとか合格点に届くことができました。

<製図試験>

一級建築士試験で最も過酷なのがこの製図試験だと思います。製図試験は学科試験以上に勉強時間が

必要だと思います。製図試験は6時間30分で行われますが、私は最初、見本を見ながら図面を書き写す作図だけで10時間以上かかり、絶望的でした。とにかく時間をどれだけ短縮できるかが重要だと思います。私は作図スピードが人より遅かったので、作図スピードを強みにすることはできませんでした。ですが、その分、問題文の読み込みやエスキスを誰よりも早く、正確にできるよう訓練しました。また、製図試験の勉強期間中に子供が生まれ、まとまった作図時間を取るのが、なかなか難しかったので、隙間時間でもできるエスキスに力を入れたのも理由の一つです。

3. 一級建築士になって

私が一級建築士資格を取得してから、そろそろ2年が経過しようとしています。正直なところ、今でも一級建築士になったという実感はありません。実務の経験も浅く、まだまだわからない用語や、法律などがたくさんあり、自分の知識不足を痛感しています。ですが、試験勉強で得た知識のおかげで仕事に役立てることができた瞬間はとても気持ちが良いです。頑張って勉強してよかったなと感じます。そして、何より、努力して資格取得をしたという事実が自信となり、今後の私の糧となると思っています。

4. おわりに

最後に、これから受験する方へのアドバイスを書きます。一級建築士試験はとても難しい試験だと思います。何時間も勉強して、より良い点数を取らなければならないと気負ってしまい、精神的に辛くな



国土交通省 東北地方整備局
営繕部 整備課
しょうじ ともゆき
庄司 智之

(取得した資格：一級建築士)
(資格取得年度：平成30年度)

ることもあります。ですが、合格するために満点を取る必要がない試験でもあります。この試験は、自分の得意な分野、苦手な分野をしっかりと見極めて、対策をすることが大事だと思います。例えば、苦手な分野では、簡単な問題は落とさない。得意な分野では、難しい問題でも取れるようにするなど、どこで自分は点が取れるのか自己分析をして、自分なりの攻略法を探してみましょう。それは、製図試験でも同様で、先程も書きましたが、作図が苦手なら、エスキスの時間を短縮できるように訓練する。その逆もまた然りです。そうして、合格に近づける攻略法を探すのが、この試験を乗り切る1番の方法だと思います。

最後に、私はこの試験を乗り切る上で、様々な方に支えて貰いました。職場の上司、資格学校の方々や家族です。この場をお借りして、お礼申し上げます。私が一級建築士となれたのは、支えてくれた方々のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

【著者紹介】 庄司 智之 (しょうじ ともゆき)

平成3年生まれ。宮城大学大学院事業構想学研究科を修了。平成28年に国土交通省東北地方整備局へ建築職として入省。官庁営繕事業に建築設計担当として従事。